

南武線誕生生物語

— 夢みる男たち —

作・小川 信夫
演出・板倉 哲 (青年劇場)
制作・関 昭三



九転十起の実業家
浅野総一郎



アミガサ事件の
秋元喜四郎

南武線の誕生に関わった二人の男の夢と葛藤を描く物語。

南武線誕生90周年 2017年5月上演

多摩市民館 ● 5/13(土) 13:30 14(日) 13:30

エポックなかはら ● 5/19(金) 18:30 20(土) 13:30 21(日) 13:30

前売券 自由席2,900円 指定席3,600円(前売りのみ) 学生・障がい者1,000円 当日券各300円増

多摩川風景写真：
小池 汪

主催=川崎郷土・市民劇上演実行委員会
共催=川崎市、川崎市教育委員会(予定)
(公財)川崎市文化財団
協賛=川崎市観光協会、川崎商工会議所
川崎市総合文化団体連絡会
東日本旅客鉄道株式会社横浜支社
アミガサ事件100年の会
有吉堤竣工百年の会

お問い合わせは… tel.044-222-8878



九転十起の実業家浅野総一郎



アミガサ事件の秋元喜四郎

今年は
南武線誕生
90周年

南武線誕生物語

—夢みる男たち—

ああ、私には聞こえる
新しい時代に向かって走る あの響きが

川崎の大動脈とも言われる南武線は昭和2年(1927年)、「南武鉄道」として開通した。誰が思いつき、誰がどのようにして実現させたのか、その誕生の陰に秘められたエピソードを、二人の男の夢と葛藤の物語として描く。

一人は御幸村村会議員を経て橘樹郡議員として活躍した、秋元喜四郎。多摩川に堤防を築いて欲しいと立ち上がった村民600人、「アミガサ事件」のリーダーでもあった。もう一人は、ガス、セメント、造船、運河と広大な埋め立て事業を行った浅野財閥の浅野総一郎。

全く違う立場の二人の男が、日本の近代化へのうねりの中に展開する壮大なロマンを盛った人間ドラマである。

川崎郷土・市民劇第6弾ならではの迫真、必見の舞台。

作・小川 信夫
演出・板倉 哲
美術・内山 勉
音楽・川崎 絵都夫
照明・横田 元一郎
音響・山北 史朗
衣裳・加納 豊美
振付・花柳 錦右
舞台監督・幡野 寛
演出助手・柳沢 芳信、
宇津木 健
制作・関 昭三
制作助手・城谷 護、
柴田 昇

◎川崎郷土・市民劇 上演実行委員会

顧問 斎藤 文夫
川崎市観光協会 会長
委員長 黒田 俊夫
川崎市人権擁護委員協議会 顧問
副委員長 小川 久光
東日本旅客鉄道株式会社 川崎駅駅長
副委員長 原島 弘
多摩区観光協会 顧問
副委員長 藤嶋 とみ子
川崎市総合文化団体連絡会・
中原区文化協会 顧問

川崎郷土・市民劇とは 川崎郷土・市民劇は、川崎の歴史や人物を採りあげ、市民自身が劇化上演することにより、多くの市民に鑑賞の機会を提供すると共に街の活性化を図ろうとして、川崎市制80周年の2005年にスタートしました。これまでに、多摩川の改修を図った田中兵庫、川崎の海を埋め立てた池上幸豊、枳形城の稲毛三郎重成、戦後川崎物語、詩人・作詞家の佐藤漱之助など5本の作品を上演。川崎在住の劇作家・小川信夫氏の力作で、毎回3,500人以上の観客から好評を得ています。

出演者



阿部 伊津子 井口 恵子 伊藤 仁人 稲垣 美恵子 井上 倫宏 今橋 由紀 宇津木 健 大井 かおる 岡野 三郎 小川 がこう



桂 米多朗 刈屋 愛水 川口 崇 河村 はじめ 高坂 諭 上阪 真佐子 小河内 一雄 護柔 一 齋藤 弘樹 坂木 フミ 櫻井 恵里佳



柴田 悦子 瀬谷 やほこ 高瀬 隼 高橋 宏和 高橋 みゆき 高村 絵里 田中 耕一 中谷 麻由子 成井 裕美子 袴田 浩之 袴田 羽音



広瀬 慎一 福留 千恵 藤井 康雄 ミズノ タクジ 村田 アミ 村田 好行 森 サチ子 山下 真琴 若菜 とき子 渡辺 高志 (五十音順)

前売券 自由席2,900円
指定席3,600円
(前売りのみ)
学生・障がい者
1,000円
当日券…各300円増

お問合せ・お申込み

川崎郷土・市民劇上演実行委員会
〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町12-1 3F
(公財)川崎市文化財団内
tel. & fax. 044-222-8878
k.shimingeki@gmail.com

チケット取扱い

川崎文化会議(川崎区) 044-244-7481
ラゾーナ川崎プラザソル(幸区) 044-874-8501
京浜協同劇団(幸区) 044-511-4951
川崎市民劇場なかはら(高津区) 044-455-7950
アートセンター(麻生区) 044-955-0107